軽井沢シンフォニックコーラス
TUTTI 第44号
2024.05.17

スペイン合唱旅行

伊藤 綽子（アルト）

1996年の暮れに、上の姉から電話が入り「今度うちの合唱団でスペイン・セゴビアの合唱団と合同の演奏会をして、その後スペイン国内を旅行する計画を立てたんだけど、放医研の人達も一緒に行かない？」という内容。また、旅行のプランと相手側合唱団との交渉は、旅行会社が全部手配するとのことでした。

姉は音大を出て当時住んでいた銚子地区でピアノを教えながら、合唱好きな女性達を集めて合唱指導をしており、また、銚子から少し離れた両親が住む匝瑳地区でも女性達に合唱指導をしておりました。

私は、千葉市稲毛にある放射線の影響とがん治療の研究所に勤務しておりました。私を含め有志で合唱団を立ち上げ、7～8名程からスタートし次第にメンバーが増え、20数名の合唱団になっておりました。毎年病院のホールで、夏には“七夕コンサート”、暮れには“クリスマスコンサート”を開催しておりました。1時間足らずの演奏でしたが、入院中の患者さん（中には「是非見たい」とストレッチャーに乗せられて聞きに来られた方も）、医師、看護師、技師、他の研究部の皆さんが聞きに来て下さいました。

12 月のクリスマスコンサートが終わって、合唱団のメンバーに“スペイン合唱旅行”の話をすると5名が“参加したい”と手を上げました。年が明け、姉から楽譜が送られてきました。 3つの合唱団はそれぞれ練習し、合同の練習は数回行いました。

［3月24日（月）］

さあ、いよいよ出発です。

総勢35名成田空港に集合し、13：45予定通り離陸。同日22：05マドリードに到

着。

［3月25日（火）］

ホテルに到着し部屋から下を見ると、ホテルの前にエスパーニャ広場があり、その中心に大きな“セルバンテス”の像、その前には“馬に乗ったドンキホーテ”と“従者サンチョパンサ”の像が見えました。

午前中は市内観光でした。プラド美術館（16世紀及び17世紀＜所謂スペインの黄金期＞に収集された作品が多いとの事）ではゴヤの“着衣のマハと裸のマハ”を、他にもベラスケス等沢山の絵画を鑑賞しました。その後は、壮大で美しいマドリード王宮を見学しました。

バスの車窓から市内を眺めると、広い道が四方から集まるロータリーの中心や公園には、コロンブスの像やカルロス3世の像などが置かれていました。

スペインでは街のあちこちに大きな広場や公園があります。その中心には、政治的・文化的に功績のあった偉人や画家、小説家等の銅像が建てられており、市民は“誇りに思う人物を常に称えたい”という“心のありよう”を感じました。

午後、バスで演奏会が開催される“セゴビア”に向かいました。町に入って直ぐ、世界遺産として有名な“セゴビアの水道橋”を見物しました。

その後、会場の市民ホールで入念なリハーサル、そして本番です。先ず、私達の合同合唱団の演奏（約40名）、次に姉の後輩4人のソロと四重唱を、そして現地セゴビアの“AGORA混声合唱団”（約35名）はミサ曲を中心に6曲歌いしました。とても和やかな音楽会となり、いつまでも暖かい拍手をもらいました。

演奏会終了後“打上げ会”が行われました。全員が集まり、食べたり踊ったり（AGORA合唱団のメンバーからフラメンコの踊り方を教えて貰いました）、大いに盛り上がりました。また、姉は宴会場の真ん中で大きな模造紙に太い毛筆で“春爛漫”と書いて見せ、日本の書道の一端を見せるパフォーマンスもしました。夜が更け、マドリードのホテルに帰ったのは24：30を過ぎていました。

［3月26日（水）］

スペイン南部各地への観光が始まりました。

マドリードのアトーチャ駅から新幹線「Ave」でセビリアへ。車窓から、果てしな

く続く麦畑、オリーブ畑を眺めて、セビリアに到着。市内観光で「カテドラル」「ヒラルダの塔（市内の眺めが素晴らしい）」「アルカ―サル」を見物していると、遠くから音楽隊の音。スペインでは毎年３月末に「聖週間」の行事を行っています（年によって日程は変わる）。丁度そのパレードに遭遇しました。先ず、十字架に磔にされたキリストが山車<京都の祇園祭の山車のような形・大きさ>の上部に置かれ、運ばれます。（山車の下部は布の幕に囲われていて、その中で若者（約 20 名）がゆっくり歩いて山車を進めて行きます）。次はマリアの山車。マリアは白い美しい衣装で立ち、キリストへの祈りを捧げています。山車の周囲全てを白い花で囲み、悲しみを表しています。そして、喪服の一般女性の列、警護隊、音楽隊、そして、青くて頭上が 40cm 程尖った三角帽の覆面に白いガウンの衣装の一団が続きました。

[3 月 27 日（木）]

バスでグラナダへ。先ず、是非見たいと思っていたアルハンブラ宮殿（スペインは一時イスラムに支配され、その文化を色濃く反映した宮殿）。漆喰に繊細な彫刻を施した壁、獅子のパティオ、カルロス５世の中庭、離宮ヘネラリーフェの美しさに溜息をつきました。その日は、バスでジプシーの洞穴居住区域タブラオに行き“フラメンコ”を見ました。何処から出すのか“叫び”のような歌声、激しく掻き鳴らされるギターの音色、狂おしい程の踊り、絶え間ない手拍子、踏み鳴らす足音に、虐げられてきたロマ（ロム）の人達の、誇り・情熱・激情・切なさを強く感じました。

私は、高校時代は音楽部に所属し色々な曲を歌っていましたが、一番思い出す曲は“流浪の民（ブナの森の葉隠れに…）”です。この歌の流浪の民は、“ロマ”の事を指すそうです。

……

ロマ：Roma

☆ インド北部が起源。5 世紀から中東欧を主として世界各地に居住する民族グループ。

☆ 複数の経路で度々インド方面からヨーロッパへ移動してきたと考えられる。

☆ 「ジプシー」など「エジプト人」に由来する呼称も多く使われる。

……

[3 月 28 日（金）]

バスでマラガへ移動し、地中海が見えるホテルで昼食を取った後、空路バルセロナへ。コロンブスの記念碑（右手は高々とインドの方角を指している)、町で大道芸人のパントマイムを見物、ホテルで夕食をとった後、有名なグループのフラメンコ・ショーを鑑賞することになりました。最近は「フラメンコはアンダルシア地方（グラナダ）より大都市の方が上手な芸人が多い」と言われているそうですが、私は昨日のタブラオでのショウの方がずっと気に入りました。

[3 月 29 日（土）]

午前中、バルセロナ市内を観光。フェ二キア時代から歴史を積み重ねてきた古い街並みを歩いているとローマ時代の遺跡に出会いました。ピカソ美術館（ピカソの幼年・少年・青年時代のスケッチ・落書き・習作を興味深く見ました)、聖家族教会、モンジュイックの丘、唯一無二の建築家・ガウディ設計のサグラダファミリア教会・ミラ邸・グエル公園を、名残惜しい気持ちで見物しました。

[3 月 30 日（日）]

今日が最終日となってしまいました。

荷物をまとめて、ロビー集合 10：20。沢山の思い出が残りました。皆さん有難う。

帰路は、ロンドン始発でバルセロナ 13:30 発の便を予定していました。ところがロンドン出発が何かのトラブルで遅れ、バルセロナ到着が約 1 時間遅れました。それを少しでも取り戻すために、全員、待合室から飛行機まで大きいトランクを引っ張り、大汗を掻かきながら成田行きに乗り込むという“ハプニング”がありました。

もう一つ、シベリア上空で“ヘールボップ彗星”を見るという、こちらは嬉しい“ハプニング”でした。そして、成田空港に 12:10 全員無事帰国しました。

「パソコン IT たいへんの記」　　白枝 庸介（バス）

ある日、突然『McAfee（ﾏｶﾌｨｰ：Microsoft 社系のウィルス駆除ソフト)』から「ウィルスに感染してプログラムが破壊された！貴方のセキュリティソフトは期限切れ！ウィルスを駆除するには○○○をクリック！」というポップアップが けたたましい警告音つきで送られて来ましたが、それは McAfee ソフトの購入を促すストーリーでした。何度消しても繰り返し現れるのでＩＴ技術者の娘婿殿に問い合せたところ「購入手続きに誘導してクレジットカードの情報をハッキングする詐欺が疑われます」との由。婿殿は早々にリモートアクセスで私のＰＣ内のウィルスをクリーニングのうえ”本物の McAfee“ を組み込んでくれました。

以前から性急なものや高圧的なものは詐欺を疑うことにしていますし、落ち着いてネット上を検索すれば “本物から正規” の注意喚起や対策情報が発信されているとはいえ、IT 弱者の無知や動揺につけ込む手口は対処が面倒で不愉快です。この一件で暫く忘れていたＩＴストレスを久し振りに味わったのでした。

４８年前、学生の私は助教授から旧式の（両側に穴の開いた帯状）連続用紙に種類の違うドット類がグラフィカルに展開されたものを見せられました。それはコンピュータグラフィックの初歩的試作品だったのですが、その時コンピュータグラフィックの仕組み以上にコンピュータ通信の未来妄想の方が印象的で、その夜 “人間のコミュニケーション(意思の伝達)” について考えることに。

ものごとを伝える変遷において、太古に「言葉」により身体の壁を越え、古代に「文字」により時間の壁を越え、中世には「複製印刷技術」により身分の壁を越え、近代には「通信」によって距離の壁を越えましたが、それが将来コンピュータ通信によって “双方向性” をも持つようになれば、中世以降に固定されてきた少数の発信者(＝強者)と圧倒的多数の受信者(＝弱者)という一方向の関係性が崩れ、数多の元受信者からも勝手無秩序に情報が乱発される “情報アナーキー” になるのではないかと不安になったことを憶えています。

(きっと)その頃 “コンピュータのパーソナル化” の将来像がひらめいた同年齢の

ビル･ゲイツ青年はその後に『Windows』で世界を席捲しましたが、不安の気付きを活かせなかった私は、20 年後に職場に導入された Windows パソコンの複雑な操作とネット通信の急伸に翻弄され続けることになるのでした。嗚呼

今は現役界の情報錯綜から距離を置いて穏やかに過ごせていますが、あれだけストレスの元凶だったパソコンは、スマホともども生活に必需で手放せません。例えば中山道歩きの準備では、峠道の勾配と距離から所用時間を割り出す為に「ネット版・国土地理院デジタル標高データ」が有効ですし、予定の道中を実写画像で事前確認できる「ストリートビュー」はイメージングに不可欠、という具合に。

結局これからも IT 通信に係わるストレスは “便利が産んだ不便が基(ﾓﾄ)” と割り切るしかないのでしょう。嗚呼・・

「ストリートビュー」といえば、いつぞや愛宕山の別荘地を Alkinist しているとGoogle の撮影車が追い抜いて行ったので、暫く後にその場所をネット画面で確認したところ、やはり我々夫婦が（顔消しながら）しっかりと写っていました。めったに画像更新する道ではなさそうなので、数年のあいだ、あるいはもっと後まで我々は画面に貼り付いたままなのでしょう。嗚呼・・・・

【編集後記】

またまた盛り沢山の TUTTI になりました。伊藤さんのスペイン旅行記は描写が具体的で、ツアーに同行しているような気持ちになります。

白枝さんは一時退院中に原稿を送ってくださいました。ストリートビューにお散歩画像が残るなんて。グーグルの地図を開いて「愛宕山」と入れましたが、ご夫妻が歩いた場所が分かるわけもなく、見つけるのは断念しました。

真﨑さんの「遠い国」の物語は、来月号に掲載予定です。「鐘と蝉」のお話から始まって･･･という予告を頂いています。どうぞお楽しみに。（岡田）